

図書館 記念対談 PART ①

情熱と企画力と

(樋渡)

一昨年の年末に、増田社長をテレビで拝見して、その時初めて代官山蔦屋書店を知りました。見た瞬間に「これだ!」と思って。それで、同級生の古賀鉄也君に頼ったところ、カルチュア・コンビニエンス・クラブ(以下CCC)の副社長さんにお会いできることになりました。

さつそく上京し訪ねていたら、なんと偶然に路上で増田社長にお会いできたんです。そこで、単刀直入に「ぜひCCCさんに私たちの図書館をお願いしたい」と、僕の思いをお伝えしました。その時、増田社長に「私もやりたいんだ」とおっしゃっていただいて感動しましたよね。

その後、実際に代官山蔦屋書店を拝見して、「これは単なるハコではなくて、パッションだ」と。パッションの表現としての企画力を感じまして、ぜひ一緒に手を組ませていただきたいと思ったのが始まりなんです。

(増田)

普段、私たちと行政の人たちとの関係は、どちらかというと私たちからお願ひすることが多いんです。それが、行政の人たちの方からお願ひしますと言われて、しかも市長直々なので、驚きました。心地良い違和感という感じでしょうか。

それで話をしたら、このテンポでこのリズムで分かりやすい(両者笑)。その後、この図書館に招待していただいて、その時にはもう新しい図書館のイメージができました。

(樋渡)

そうですね。増田社長に初めて武雄市の図書館へお越しいただいた時、「ここはこうしたら」とか

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
代表取締役社長 兼 CEO

増田 宗昭
Masuda Muneaki

(増田)

色々アイデアをお話されていましたが、それがそのまま実現しています。その実現力には、腰を抜かして驚きましたね。

私がすぐにイメージできたのは、もともと武雄市の図書館が素晴らしかったから。風景と馴染み、空気感や本との相性も良い。

それから、人がやって来て、どういう動線を読めるのかを考えて設計されているのが素晴らしいんです。そうした下地があったから、今回のプロジェクトもうまくいきました。

ポジティブを引き出す空間

(樋渡)

私はかなりの図書館フリークで…

(増田)

ここには毎日来てもらいますね(笑)。

(樋渡)

そう、毎日来ています(笑)。

そんな私が今まで好きだった図書館が、ニューヨーク公共図書館と、東京大学の総合図書館なんです。ここはその2つをはるかに上回りましたね。

こんな素晴らしい図書館が武雄市にできたことが今でも驚きます。

私が気に入っているのが、光の採り入れ方で、教会のような雰囲気、とても心地良く過ごせるんです。

(増田)

どこか神聖な気持ちにもなりますよね。

人間にはプラスとマイナスの両方を含めて、色々な感情や思いがあります。それが空間によつて引き出されることがあります。ある場所では邪悪な面が出たり、別の場所では美しくなったりする。